

命と平和と健康と

会期 6月11日
議員 栗山香代子



栗山香代子議員

今年の3月に神戸で、医療福祉生協連が開催した「健康づくり学会」で、WHO（世界保健機関）神戸センターのジュスタシオ・ラビタンさんは、地域まるごと健康づくりの取り組みをする人々を「健康づくりのヒーロー」とよんだそうです。その会のスローガンは「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる」というものでした。

命と平和は、切っても切れない関係にあります。今、国政では、安倍首相が日本を戦争のできる国にしようとするかのように、集団的自衛権の行使容認をめぐり、今国会中に閣議決定をしようとしています。日本の若者を、地球上のどんな地域であっても戦争に参加させ、血を流せと言っているのです。

日本国憲法第9条では、国際紛争を解決する手段として、戦争と武力による威嚇と武力の行使を永久に放棄すると、はっきり定めています。

時の政府の勝手な解釈で集団的自衛権を行使できるということ、これまで培ってきた世界における日本の信頼を破壊してしまう暴挙に他なりません。

国民一人ひとりが、健康でいのち輝く社会は、自分も他人も大切に

今週の活動から



アミュー9階の映画館では2週間ごとに上映作品が変わります。7月4日までは「ローマの休日」「ペコロスの母に会いに行く」など4本。

（上：釘丸久子議員）

荻野運動公園にある防災備蓄倉庫。広さ300㎡の中に食料7万5500食、投光器やテントなどの資機材や、毛布・シュラフ・食器・トイレトペーパーなどの生活用品が入っています。（下：栗山香代子議員）



にできる社会です。平和でなくてはなりません。地方自治体は、住民一人ひとりの福祉の増進を図ることが目的となっています。市民の健康を守り、市民が行政サービスに平等に受けられるために、様々な施策がありますが、今厚木市は市民サービスを向上するために、どんなことをしているのでしょうか。今回は、具体的にどんな状況なのか、お聞きします。

市民の健康を守るための施策について
現状と課題は何か。

市長 現在、「健康食育あつぎプラン」を着実に推進するため、健診や講座など各種事業の実施に取り組むとともに、昨年から、推進モデル地区を指定し、公民館を拠点に「まちの保健室」事業や健康講座等を集中して開催しております。

また、子どもから高齢者まで一人でも多くの方に、健康意識の向上を図り、気軽にできる「新あつぎ市民健康体操」の制作を進めるとともに、市民の皆様と一緒に実践してもらえよう（仮称）健康長寿ポイント事業」の導入も検討しております。

職員の労働環境について
現状と課題は何か。

市長 本市職員の労働環境につきましては、厚木市職員安全衛生管理規定に基づき、各事業場に安全衛生委員会を設置するとともに、産業医の面接指導や健康相談を実施するなどきめ細かな取り組みを行っています。

今後におきまして、円滑な遂行ができる快適な労働環境整備に努めてまいります。

公共施設利用について
施設の目的に沿って、市民が等しく利用できるための方策は。

市長 公共施設のうち、市民の皆さまの活動の場である公の施設の利用方法につきましては、各施設の利用方法等でご案内しております。また、利用者の皆さまの立場に立ち、気軽に楽しく利用できるような公平かつ適正な施設の運営に努めてまいります。

話題あれこれ

ほ・ほ・ほたるの観察会

6月21日（土）の夜7時から、荻野運動公園で、厚木市郷土資料館主催のホタルの観察会がありました。抽選での100人は、子どもだけでなく、ご夫婦で参加の方も。郷土資料館には自然と文化の2人の学芸員さんがいますが、今回は自然・生物担当の学芸員さんが説明。「ホタルはカブトムシの仲間なんですよ」との話を、会場から「エーッ」との声が。地域によって模様や発光時間が異なること、日本にいる45種類のホタルのうち、厚木には3種類



（ゲンジボタル・ヘイケボタル・ヒメボタル）がいることなどの他、20年前に比べ生息地が半減していることや、採って持ち帰らないなどの注意事項も話されました。

その後、公園奥の外にある池に向かいます。暗闇の中、あちこちでパッと光り、緩やかに飛ぶたびに歓声が上がっていました。6月に

出るのは主にゲンジボタル。生物多様性地域戦略を早期に策定した厚木市ですが、市民が自然に親しめる環境を守り育てていくには、個々の意識が大切です。